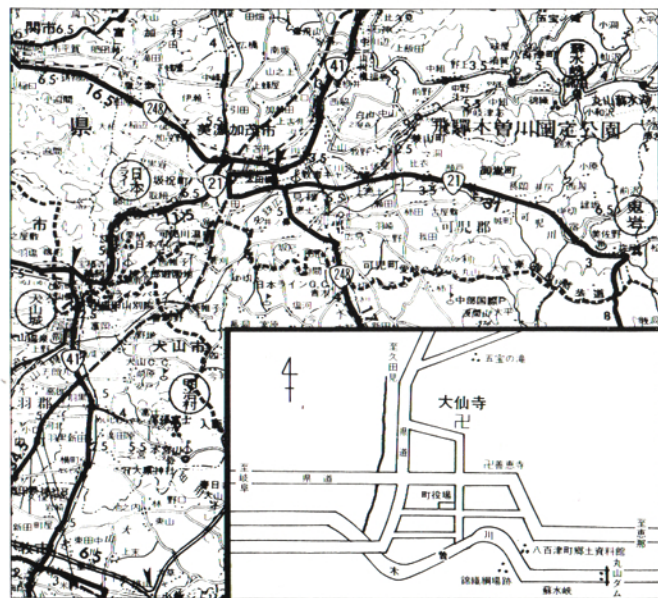


臨滄山大仙寺



臨滄山大仙寺

岐阜県加茂郡八百津町八百津4345番地の1

電話 (0574)43-0245

大仙寺概要

所在地 岐阜県加茂郡八百津町八百津四三四五番地の一

宗派 臨濟宗妙心寺派（聖澤派）

住職 大仙寺第二十三世 二宮義耕

開山 東陽英朝和尚（大道真源禪師）

由緒 当寺の前身は、寛正二年（西一四六二）に如幻尼（ニギハヤヒ）によって建てられた不二庵という寺で、はじめは南禅寺派に属し、守護代の齋藤氏一族や地元有力者古田彦右衛門を檀越として栄えた。

明応元年（西一四九三）に八百津町野上出身の東陽英朝禪師が招かれて入寺し、明応九年に再度住山した。再住のとき、山号寺号を臨濟山大仙寺と改め、宗派も妙心寺派に転ずることになった。時の美濃守護土岐政房は、当寺を「土岐家祈願所」とした。

東陽和尚が永正元年（西一五〇〇）八月二四日に示寂したあと、太雅尚匡・功甫玄勲・先照瑞初・以安智察・惟天景綱・濟北玄良と代を重ね、第八世愚堂東冠和尚に至った。和尚は寺を約五百メートル北の花房山麓（現在地へ）移転し、堂宇を新築した。檀越稲葉右近は、当寺と和尚のために寺領と山林を寄せている。また和尚は、当寺を拠点に西は九州から東は江戸まで活躍し、和尚を師と仰ぐ宮本武蔵も当寺を訪れ、坐禅にふけったと伝えられている。和尚は寛文元年（西一六六一）〇月一日に京都山科華山寺で示寂した。翌年大圓實鑑の国師号を贈られた。当寺では中興開山に仰ぎ、「国師さま」と呼んでいる。

その後、泰翁了儉・愚翁宗疑・活山玄旭・晚英祖英・芳山祖海・康林祖寧・忠道祖仁と続き、玉函周文のとき明治維新を迎えた。明治二年に和尚が隠居して無住となり、折からの排仏毀釈運動とが重なって荒廃のきざしがみられた。檀信徒の奔走により毒漬匠三和尚が入寺し、希叟東實・至道源宗・敬宗宗勤・勝道普門・耕雲宗關と代を重ねて現住職義耕宗関に至っている。

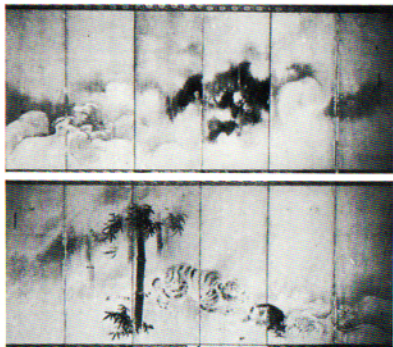
創建以来兵火や災害などに一度も遭うことなく、数多の什宝が今日に伝えられている。

寺宝

つり手型縄土器（泉文） 東陽英朝和尚他歴代頂相 チャンバ香炉 蒙山達磨絵（泉文） 万里集九賛、前古右京筆「吠々鳥」（泉文） 狩野探幽筆屏風「龍虎の図」 涅槃図（天文一四年） 起信論 梵網経等の經典 罅口（応永二二年） 東陽英朝和尚偈 愚堂国師墨跡等古文書多数



開山東陽英朝和尚



屏風「龍虎図」 狩野探幽筆



つり手型縄土器

年中行事

一月一日〜三日 大般若祈禱会
五月八日 花祭り（降誕会）
七月十五日 盆施餓鬼会
七月二十三日 子安地藏祭り
十月二十四日 開山・中興毎歳忌



一休禅師墨跡